

月明かりに照らされた子供たちが数人、暗闇の中から縁先には、小机の上にススキとヨメナなど秋の草花を刺した一升瓶が飾られている。

夜は、年に一度の子供たち

今年は九月と十月の月の満ち欠けが、新暦旧暦共に同じ日になつた。珍しいことだ。今月は九月十五日が「十五夜」、十月十三日が「十三夜」だ。中秋の名月が持めるかな。

昔は縁先にススキと秋の草を飾り、月見団子を供え、その様子を回想してみたい。

「何でもいいから、

月見団子やサツマイモ・和菓子などが供えてある。子供たちは、それをねらつて、一軒一軒家々を物乞いして歩くのである。

家々では、子供たちが来る

と、待つてましたとばかり、

にこやかに団子やらお金やらお菓子やらを差し上げる。

楽しいひと時で、子供と地域が一体になつた行事だ。

お月見泥棒

月が見えなくなつた

金蔵院から、一昨年いた

だいた「平成二十六年智山御寶曆」によると、十五夜の

うか。家中は夜でも明る

だが、月を愛する習慣は皆無に等しくなつた。真つ暗

な闇夜がなくなつたせいだろ

うか。習慣が生まれたのだ

生活に不可欠だつた。まして

そこから「月を愛する」習慣

が生まれたのだ

今年は九月と十月の月の満ち欠けが、新暦旧暦共に同じ日になつた。珍しいことだ。今月は九月十五日が「十五夜」、十月十三日が「十三夜」だ。中秋の名月が持めるかな。

昔は縁先にススキと秋の草を飾り、月見団子を供え、その様子を回想してみたい。

月見団子やサツマイモ・和菓子などが供えてある。子供たちは、それをねらつて、一

軒一軒家々を物乞いして歩くのである。

月の出と共に「お月見泥棒

でーす」と子供の一団が、に

こにこしながらやつてきて、

お供え物を遠慮なくいただ

いていく催事で、年に一度の

大人と子供の触れ合いの行

事だという。

それが南畠では、物乞いの

行事に変わつたのであろう。

誠に微笑ましい行事だ。

十五夜、月を愛する

その横には、美味しそうな

に許された夜更かし行事だ

という。

昭和初期の電灯は、1軒1

灯か2灯だつた。それも16燭

光という非常に暗い電灯だ。

それでも、当時は非常に明

るく感じた。数年前、長野

県の小布施町の「明かりの

博物館」で、この16燭光の明

るさを体験した。当時は明

るいと思っていたが、こんな

に暗かったのかとびっくりし

た。慣れというのは恐いもの

だと、その時強く感じた。

昔は、萤雪時代と言われ、

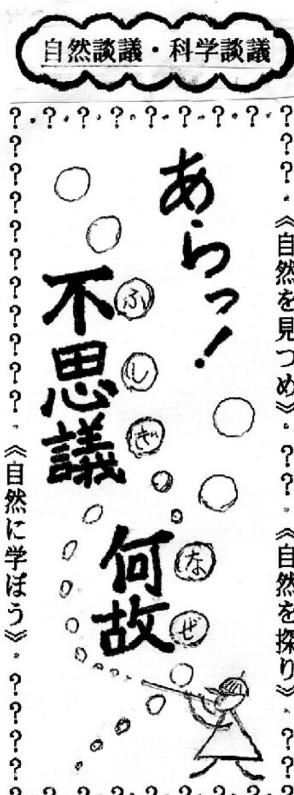
ホタルの光も雪の光も貴重

だつた。勿論、月や星の光は

や満月の月明かりは格別だ。

そこから「月を愛する」習慣

が生まれたのだ



NO. 18 (通算18)

## 絵・文・題字

渋谷 一夫

い。外も外灯やら街灯やらで一晩中明るい。昼夜休みなしの店もあり、車のヘッドライトは一晩中だ。ささやかな月明かりは、出る幕がない。

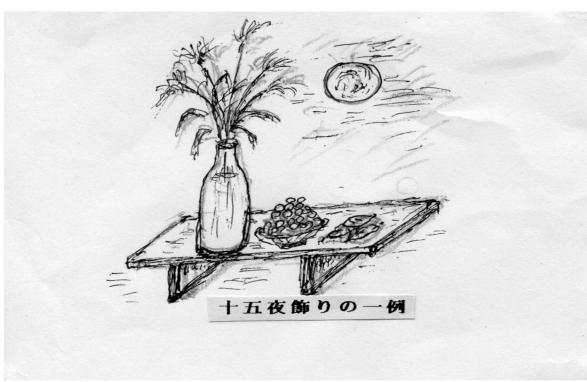
昔の南畠は、外灯もなく街灯もなかつた。家中も、電灯は1灯か2灯で非常に暗かつた。だから満月の光は格別だつたのだ。「月を愛する」気持ちはよく分かる。

秋は空気が澄み、月が、はつきり見える。

何故「中秋の名月」

昭和初期の電灯は、1軒1

街灯もなかつた。夜は真っ暗、闇夜だつた。家中も、電灯は1灯か2灯で非常に暗かつた。だから満月の光は格別だつたのだ。「月を愛する」気持ちはよく分かる。



十五夜飾りの一例